



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だ

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月。9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2010年11月現在、川崎2、横浜5、県域10 計17名で活動中!!

～ '10 神通研集会報告④ ～

◎横浜市港北区の取り組み

地域の「港北区災害ボランティア連絡会」(活動目的は、災害時、社会福祉協議会が中心に立ち上げるボランティアセンターに全国から集まってくるボランティアとボランティアに手伝って欲しい要望とをマッチングする役割を担うコーディネーターの養成)にサークルとして加入。

2009年度は、被災しなかった聴こえない人・手話サークルの会員がボランティアセンターにボランティア登録に来たという想定で、聴こえない人がコーディネーターの役割を担うシミュレーションを行った。

受付から登録等全ての流れを聴こえないコーディネーターが手話で対応という模擬。

また、聴こえない人、手話サークル会員がボランティアとして避難所に物資を運ぶシミュレーションも行った。他のボランティアといっしょにためコミュニケーションボードを使った。

参加しないといろいろなところと繋がっていかない。参加することで、聴こえない人にとって何が必要なのかを、地域の人にも気付いてもらえる。避難所の備品庫にコミュニケーションボードの準備等の要望も出していける。

ぜひ、地域の防災訓練に参加して頂きたい。

～ 定例会 10/16(土) ～

手話を学ぶ場、聴こえない人たちの考え方が多様化している昨今、手話への関わり方もさまざまになってきました。

「個」として自由な活動を望む時代。いろいろな活動を非難し合うのではなく、お互いに尊重しながら、いざというときには協力し合う体制作りが課題でしょうか。

【次回定例会】'10/11/28(日)

10:00~12:00

かながわ県民センター 12F ボランティアコーナー

～サークル研究班メンバーのささやき～

最近、職場の同僚の影響で、携帯電話で「国盗りゲーム」をやっています♪

簡単に云うと、携帯版スタンプラリーの様なもので、日本全国が600の国に分かれていて、行く先で位置情報を送信し、領土を統一(拡大)していくというものです。統一した国が増えていくのは嬉しいものですが、始めて1ヶ月、統一出来たのは12国だけ。改めて自分の行動範囲の狭さを実感。。。正月に熊本に帰省したら、どんだん国盗りしたいな!

いきなり団子